

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 28 日現在

機関番号：25406

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23613007

研究課題名(和文) リハビリテーション専門職のための倫理教育教材の開発と検討

研究課題名(英文) Development of ethics education materials for rehabilitation professionals

研究代表者

吉川 ひろみ (Yoshikawa, Hiromi)

県立広島大学・保健福祉学部・教授

研究者番号：00191560

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円、(間接経費) 660,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、リハビリテーション専門職のための倫理教育プログラムを探求することである。先行文献とリハビリテーション実践者の経験から、倫理事例集を編纂し、この事例集を教材とした研修を実施し、人的ネットワーク構築のためにウェブサイトを開設した。

初版の事例集には64事例だったが、専門職からのフィードバックにより、最終版では倫理概念の解説を追加した44事例となった。事例集はウェブサイトからダウンロードできるようにした<<http://rehabrinri.tobiiro.jp/index.html>>。紙面上の事例検討だけではなく、即興劇(プレイバックシアター)を取り入れることが有効だとわかった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to explore an ethics education program for rehabilitation professionals. A collection of cases from literatures and therapists' experiences was established. The workshops were held by using this collection. The website was opened to establish network. The first collection consisted of 64 cases. The latest version consisted of 44 cases and descriptions about ethical concepts. It can be downloaded on the website, <http://rehabrinri.tobiiro.jp/index.html>. Improvisational theatre such as Playback Theatre was effective instead of only using printed materials for ethics education.

研究分野：時限

科研費の分科・細目：生命倫理

キーワード：リハビリテーション 倫理 教育

1. 研究開始当初の背景

筆者は大学で、看護とリハビリテーション関連職を目指す学生に「生命倫理学」の授業を行っており、テキスト(1,2)も執筆したが、学生の関心を高めることに苦心していた。リハビリテーションの現場では、生死に直接関与する医師や看護師に比べ、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーといった専門職は、生命倫理に対する関心が薄いのではないかと感じていた。

海外では、理学療法士や作業療法士が執筆した倫理をテーマとした書籍が出版されており、重度の身体障害をもつ青年のリハビリテーションサービスの終了時期の検討や、認知症高齢者のケアにおける倫理的問題などが扱われている(3,4)。

そこで、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー、医師、看護師、介護士、特別支援学校教員などリハビリテーションに関わる専門職が気軽に学習できる生命倫理教材を開発し、試用を依頼することで、対象者の権利への配慮と正義への関心を高めることができるのではないかと考えた。

- 1) 吉川ひろみ:保健医療職のための生命倫理ワークブック 本当によいことなのか、もう一度考えてみよう。三輪書店、2008。
- 2) 砂屋敷忠、吉川ひろみ、岡本珠代、古山千佳子:改定増補版 医療・保健専門職の倫理テキスト 悩める医療スタッフと学生のための事例集。医療科学社、2007(初版2000)。
- 3) Purtilo, R: Ethical Dimensions in the Health Professions 4th Edition. Elsevier, Philadelphia, 2005.
- 4) Bailey, DM & Schwartzberg, SL: Ethical and Legal Dilemmas in Occupational Therapy 2nd Edition. FA Davis, Philadelphia, 2003.

2. 研究の目的

本研究の目的は、リハビリテーション専門職のための倫理教育プログラムを提案し、その効果を明らかにすることである。具体的には、リハビリテーション現場における身近な倫理事例から教材を開発し、その教材を試用し、効果的なその意見を基に、よりよい倫理教育プログラムを提案する。

3. 研究の方法

1) 倫理事例集掲載内容の検討

先行文献とリハビリテーション実践者の経験から、倫理事例集を作成し、現場で働く作業療法士などから意見を聞いた。

2) 事例集の作成

日本のリハビリテーションの状況に合うよう事例を改定し、倫理原則、理論、事例分析の枠組みなどの説明を加えた事例集を印刷した

3) 研修機会の提供

作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、看護師などを対象に、事例集を教材として研修を実施した。倫理事例分析のための枠組みや倫理的問題状況へのアプローチについて学ぶ倫理セミナーを開催した。

4) 人的ネットワークの構築

リハビリテーション倫理に関心をもつ人たち相互の情報共有と意見交換の場となることを期待してウェブサイトを開設した。

4. 研究成果

1) リハビリテーション倫理事例集の作成

初版の事例集は64事例により構成されていたが、専門職からのフィードバックにより、最終版では倫理概念の解説を追加した44事例となった。これを49ページの冊子体として印刷し、作業療法士や理学療法士を対象とした研修会で使用した。事例集はウェブサイトからダウンロードできるようにした。

解説付きで掲載した事例は、「Aさんは自殺未遂の後遺症で四肢麻痺となった。セラピストのTさんに、死ぬこともできなかった、生きていたくないのに、もう死ぬこともできないと言う。TさんはAさんの話を聞くと気持ち沈みこんでしまう。同僚はTさんに同情するものの、具体的な支援は何もない。Aさんの家族は、前向きに生きてほしいと言っている。Tさんはどうしてよいかわからない」など44事例となった。

解説は、倫理原則としては、自律尊重、善行、無加害、公正、正直さ、誠実さとした。前半の4原則に正直と誠実を加えたのは、看護協会がこの2つを追加していることと、研修への参加者にとっては正直(嘘をつかない)や誠実(約束を守る)を追加することで考えやすくなるような印象を受けたからである。

倫理理論の解説ページには、結果主義、義務論、徳や人格に基づく倫理、権利に基づく倫理、カズイストリー(事例に基づく倫理)、直感に基づく倫理、コールバーグの道徳性発達理論、ケアの倫理を含めた。これは、Kornblau BLとBurkhardt A(著)「Ethics in Rehabilitation: A Clinical Perspective 2nd edition」(Slack, 2012)の一部を参考にした。コールバーグの道徳性発達理論は、授業や研究会で紹介した時の反応が良好であったために加えた。結果主義と義務論の対比については、状況理解に役立つ概念だと述べた研修会参加者が複数いた。

その他の倫理概念として、インフォームド・コンセント、守秘義務、パターンリズム、リバタリアンとコミュニタリアン、インテグリティ、オープンマインド、忠誠とした。リバタリアンとコミュニタリアンについては、テレビ番組の影響で知っている人が多いのではないかと予想したが、言葉を知っている

人はわずかだった。

事例集には、医師、介護福祉士、看護師、言語聴覚士、作業療法士、ソーシャルワーカー、理学療法士、臨床心理士といった専門職倫理綱領、本研究過程で収集できたその他の事例、簡単な用語解説も掲載した。

2) 倫理事例分析のための枠組み

倫理セミナーで講師として招聘した Ron Dick 氏から、自身が開発に関わった「倫理的作業療法実践のためのカナダモデル」の使用法を学んだ。その他に、パーティロの6段階モデル、ジョンセンの4分割表の説明を事例集に掲載し、研究会やセミナーでの小グループによるディスカッションで使用を試みた。

倫理的作業療法実践のためのカナダモデルは、関係者全員の人と環境と作業を考えることにより、関係者間の相違を理解していくものである。

パーティロの6段階モデルは、米国人の理学療法士 Ruth Purtilo により開発されたモデルで、ケアリング反応を基本姿勢とする行動指針を示している。情報収集の段階があるため、不十分な情報のままでは先に進めないような印象を受ける。

ジョンセンの4分割表は、米国の哲学者 Albert Jonsen が臨床医たちと開発したモデルで、本研究協力者の中にも使用経験者がいた。医学的適応、QOL(幸福追求)、患者の意向(自律性尊重)、周囲の状況(効用と公正)といった4側面から状況を分析する。臨床家が持っている情報が医学的適応に偏っていることを気づかせる効果はあるようだが、クライアント中心の実践という視点から見ると、患者の意向とは別の側面としてQOLの側面が設定されていることに違和感がある。

3) プレイバックシアターの活用

紙面上の事例検討だけではなく、プレイバックシアターを取り入れることが有効だとわかった。プレイバックシアターは、観客が経験したストーリーを劇団の役者が即興で演じるものである。「プレイバックシアター入門」(明石書店、2006)の著者である宗像佳代氏および劇団プレイバックーズのメンバーから研修を受けるとともに、本学へ招いてワークショップを開催した。プレイバックシアターを活用するためには、観客をストーリーの語り手(テラー)として招き入れ、テラーが経験したことを、舞台上でアクターが演じる劇になるようインタビューを進める司会役(コンダクター)を務める技能が必要である。また、テラーのストーリーを即興で演じるアクターには、共感性と創造性が求められる。本研究で行われたプレイバックシアターは、参加者が観客だけになる公演と参加者がアクターも経験するワークショップの両方であった。筆者は、本研究での取り組みを通してコンダクターとしてもアクターと

しても技能を高めることができた。

倫理セミナー、作業療法教育学会では、本研究で作成した事例集を使うとともに、プレイバックシアターの演習を行った。演じられたストーリーの例は次の通りである。

「病院で作業療法士として働いていた頃、患者のしたいことや家でもできることをしてほしいと考えたので、作業療法室では写経や仏画に取り組む患者がいた。ある時、別の患者が自身の宗教上の理由から『そんなことをしていたら地獄に落ちる』と言い出し、患者たちにはやめろと言い、作業療法士にはやめさせろと言った。以前は仲がよかった患者たちだったのに、トラブルになってしまった。時間調整でその場はしのいだが、どうすればよかったのだろう。」この他に3つのストーリーが参加者から語られた。

参加者からの感想は次の通りだった。

- 考えや悩みが演技を見ることで整理される。他人が演じることで生じるズレが気づきを生む。観客として見ているだけでも、自分のこととして深く考えられる。
- 状況分析し考える機会として、大変わかりやすい。
- 自分自身を外から見ることができた。
- チーム医療を促進する方法になりうる。
- 共感性に欠ける学生のサポート方法となる。
- いろいろな視点で分析、共有、ディスカッションすることは必要だ。リアリティがあり、楽しい手法だ。
- 振り返り、客観的にみることによって、内省の機会になる。
- 楽しく、問題の共有が感じられた。強烈に感受性を高める場となった。
- コミュニケーションにおける多声性(内なる声)が表現された。
- 「悩んで当然」を伝える有用な方法だと思った。概念だけ学ぶと他人事になってしまうが、プレイバックシアターは有用なので教育に取り入れたい。
- 倫理に興味をもち、学ぶ必要性を感じた。
- 倫理的に悩んでよいと肯定的に自分の過程をとらえることは心のヘルスケアにもよい

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

古山千佳子, 吉川ひろみ, リハビリテーション専門職のための倫理教育, 作業療法教育研究, 査読有, 13 巻, 2014, 3 - 84

吉川ひろみ, 作業療法のグローバルスタンダード, 作業療法ジャーナル, 査読無, 46 巻, 2012, 312 - 317

吉川ひろみ, 国際基準に基づく今後の作業療法教育, 作業療法教育研究, 査読有,

12 卷, 2012, 2 - 8

〔学会発表〕(計 2 件)

吉川ひろみ, 古山千佳子, 倫理教育におけるプレイバックシアターの活用, 第 17 回日本作業療法教育学会, 東京, 2012 年 10 月 20 日

古山千佳子, 吉川ひろみ, リハビリテーション専門職のための倫理教育, 第 16 回日本作業療法教育学会, 東京, 2012 年 10 月 14 日

〔図書〕(計 1 件)

吉川ひろみ, すべての人によい作業を. 岩瀬義昭他編, “作業”の捉え方と評価・支援技術 生活行為の自律に向けたマネジメント, 医歯薬出版, 2011, pp. 15-26

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

リハビリテーション倫理のホームページ
< <http://rehabrinri.tobiiro.jp/index.html> >

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉川 ひろみ (YOSHIKAWA Hiromi)
県立広島大学・保健福祉学部・教授
研究者番号: 00191560

(2) 研究分担者

吉畑 博代 (YOSHIHATA Hiroyo)
上智大学・外国語学部・教授
研究者番号: 20280208

古山 千佳子 (KOYAMA Chikako)
県立広島大学・保健福祉学部・准教授)
研究者番号: 90280205

(3) 連携研究者

()

研究者番号: